

滋慶大学院新聞

発行所 学校法人 大阪滋慶学園
滋慶医療科学大学大学院
大阪市淀川区宮原1-2-8
TEL.06-6150-1336
https://graduate.juhs.ac.jp/

第21号
発行責任者 橋本 勝信
発行日 2025年(令和7年)9月30日

争いではなく医療安全を 川上の技術開発目標に



藤田医科大学

三浦 公嗣氏

8月に中国でロボット運動会が開催され、日本を含めて世界から多くのチームが参加したとの報道に接して、エンタテインメントの領域がリードすることによってロボットの開発がますます勢いを増し、実用化が一段と加速することを予感させられる。

また世界各地で戦争や武力衝突が頻発している現状を見るに、これまで多くの科学技術の進歩の背景に戦争があったことを思慮すれば、残念ながら不安定な国際情勢もロボットの開発を押し進めることになると考えられる。

米国による人類初の月への有人宇宙飛行計画であるアポロ計画はコンピュータや素材技術等の発展を通じて多くの分野に貢献してきた。その背景には欲望という人類が持つ原始的な本質が存在し、推進力になっていた。しかもその技術は当初の開発目的を超えてあらゆる局面に恩恵と災禍をもたらしてきた。後者の代表として原子力技術を挙げるならば、たとえ当初は純粋な科学的究明を意図したとしても戦争で使用され、また平和利用を謳った発電事業ですら事故が発生し、多くの人々の健康や生活に多大の悪影響を長らく与えてきている。まさ

に科学技術の進歩には光と影が存在することを強く認識させられる。

一方、医療分野に目を転じてみれば、コンピュータ断層撮影装置を例に取るまでもなく、最先端の科学技術の応用先としてその恩恵を受けてきたことは間違いない。いわば医療分野は技術開発の川下に存在し、川上で開発された新しい技術を診断・治療という医療の固有の行為に最適化するように今度は医療分野の中でさらなる改善や発展を遂げてきた経緯が見て取れる。

医療分野の中でも医療安全には明らかなニーズがあり、それに対応する具体的な方法論が求められている今日、医療安全を目的とした技術開発は、医療が本質的に抱えている「Science」と「Human Art」の両面からのアプローチが重要になる。特に前者については優れた技術シーズをどのように取り入れていくかという点が肝要であるが、医療分野自体が持つ巨大な社会的活動量から考えれば、今や医療分野自体が新たな技術の発信点になるべきではないか。言い換えれば、医療分野は技術開発の川下の重要な位置を占めるだけではなく、川上として多くの分野に貢献できることがあると考えられる。なぜなら、「安全」は医療分野においてのみ求められているわけではなく、広く生活全般において最重要課題であるからである。

医療分野における技術開発においては、資金面を含めて開発に要するリソースの確保が重要であるが、医療分野そのものに投下されるリソースが厳しく制約されている現在、医療分野からリソースを捻出するのみならず、川上の技術開発目標として新たに位置づけた上で、新たなリソースを投下すべきと考える。

2024年度学位記授与式

滋慶医療科学大学大学院の2024年度学位記授与式が3月8日に行われ、医療安全管理学の修士を取得した12名が修了しました。看護師や臨床工学技士などの医療従事者として現場で働きながら研究に励んだ彼らは、大学院で得た知識と経験を職場で活かし、医療安全の向上に貢献する決意を新たにしました。千原國宏学長は、学び続けることの重要性を福沢諭吉やアインシュタインらの言葉を引用して説き、実践に根ざした学びの継続を求めました。また、橋本勝信常務理事は、大学院での学びは大きな財産、いつか必ず大きな花が咲くとの言葉をおくられました。さらに、来賓の大阪大学大学院医学系研究科研究課長・医学部長の熊ノ郷淳様から、「医療の急速な進歩の中で質と安全の確保は重要であり、皆さんへの医療現場からの期待は本当に大きい」と祝辞をいただきました。



修了生代表の謝辞では、松本加奈さんが、仕事と学業の両立の難しさを振り返りつつ、研究への真摯な取り組みや論文完成の達成感を語り、今後も得た知識を現場で活かしていくと誓いました。

2025年度入学式

滋慶医療科学大学大学院の2025年度入学式が4月5日に開催され、第15期生として看護師や臨床工学技士など多職種の専門職13人が入学しました。はじめに、千原國宏学長から、「大学院の役割は知識の習得にとどまらず新たな知見の創出にある。観察・分析・統合・検証という科学的方法の実践を通じて、課題解決型の研究を行うことが重要。」と訓示が述べられました。また、学校法人大阪滋慶学園浮舟邦彦理事長から、「この2年間で主体的にリーダーシップやフェローシップを発揮し、研究・研修や学会などを通して生涯活かせる人的・知的ネットワークを築き、目的・目標を持って研鑽に励んでもらいたい。」との祝辞が述べられました。続いて、来賓の独立行政法人 労働者健康安全機構 大阪ろうさい病院長の樂木宏実総長から「文化として医療安全が根付かないと組織は良くならない。学問を自分の組織に実装する、社会に実装することまで念頭に置きながら学ぶと大きな実りになる。」と激励の言葉を賜りました。さらに、来日中の広東薬科大学副学長のガン・ユエンホン先生から「今後も両学は教育、科学研究などの分野でより緊密な協力関係を構築していきたい。」と挨拶をいただきました。新入生代表の宣誓では阿部綾香さんが、医療安全が医療の根幹であり、患者に安心と満足を提供することが最終目標と述べ、自己研鑽を重ね指導者を目指すと力強く誓いました。



新任教員紹介



水本 一弘先生

本年4月に着任いたしました水本一弘です。元々は麻酔科医で、卒業した和歌山県立医科大学附属病院や和歌山県内の医療機関で麻酔科医として勤務しておりましたが、2009年、和歌山県立医科大学附属病院の医療安全専任医師となり、2017年から本年3月までは医療安全専任医師を務めておりました。専門領域は、医療安全、シミュレーション教育、心肺蘇生、気道管理で、それぞれ関連した学会や学術団体に所属し、活動してまいりました。医療安全以外の領域も医療安全と直結しており、これらの視点から本学の活動、発展に寄与できればと考えます。最後に、私事になり恐縮ですが、来年2026年11月7日(土)、8日(日)の2日間、姫路市のアクリエ姫路を会場で開催される第21回医療の質・安全学会学術集会の大会長を拝命しておりますので、皆様のご参加、ご発表をお待ちいたします。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。



南部 雅幸先生

今年から本学にお世話になっております南部雅幸と申します。私は一般企業を皮切りに、国立長寿医療研究センター、京都大学医学部附属病院をはじめ、国立・私立大学の教員を歴任し本学で、5校目の勤務先となります。一般企業を退職後、縁あって千原学長のご指導の下、奈良先端科学技術大学院大学で学位を頂戴いたしました。早いもので学位を取得後4半世紀が経過いたしました。学生時代から超音波計測をライフワークとしておりますが、計測工学とICTを中心とした在宅医療や、高齢者医療、昨今話題となっておりますデータサイエンス・機械学習・ビッグデータ応用と臨床医学領域における情報処理を幅広くやらせていただいております。何が専門かわからない器用貧乏のような面がないわけではございませんが、一般企業も公務員も大学教員も起業家も経験済みで、社会人経験後の学生も経験しております。悩みがあればぜひお話を聞かせてください。よろしくお願ひします。



目 篤先生

本年4月に着任いたしました目篤(さかん あつし)と申します。大学卒業後は日本興業銀行に入行し、航空・流通・不動産など幅広い産業と企業グループの分析に携わりました。その後、事業会社(流通・金融・製薬企業)、官庁(総務省統計部局)にて財務や経営企画、統計制度改定等に取り組みました。そうした勤務のかたわら、大学院にて経営財務・社会会計の研究に取り組んでまいりました。私の研究課題としては、企業財務の分析や病院経営の財務構造を対象に、持続可能性や制度的要因の影響を明らかにすることです。勤務先・融資取引先を含めて、これまで数々の会社の困難と盛衰を目の当たりにし、持続可能な経営の難しさを強く意識してきました。今後は、これまでの実務経験と研究を基盤に、医療機関の財務管理を中心とした教育と研究をさらに深め、学生の学びを支援しつつ本学の発展に尽力してまいります。どうぞよろしくお願ひいたします。

在学生からのメッセージ

大阪府立中河内救命救急センター 医療安全管理室
専従医療安全管理者

立入あさみさん(15期生)

本学への入学のきっかけは、国際看護師として学習する中で日本のチーム医療は個々がもっとマネジメント能力を発揮できるように強化していくべきではないかと感じた事です。それらの根底には心理的安全性が不可欠であり、独立型救命救急センターにおける組織文化の醸成に貢献したいと思い医療安全管理者を志願しました。また、修了生から対面授業で得る学びの深さやクラスメイトの絆について伺い本学への入学を決意しました。

入学前から先生方に熱心な面談を行なって頂き、安心して入学前準備を進めることができました。職場もオンライン講義に合わせた勤務時間の調整を柔軟に対応して頂くことができました。

クラスメイトは多様なキャリアを持つ多職種であるため、様々な視点に触れることができとても刺激になっています。また、クラス委



員として懇親会などを開催し充実した学生生活を送っています。本学の特徴として、講義やクラスメイトからの学びをすぐに臨床で実践できることができるため社会人大学院の特権だと実感しています。

今後は国際学会の発表も視野に入れて研究に取り組みたいと思っています。

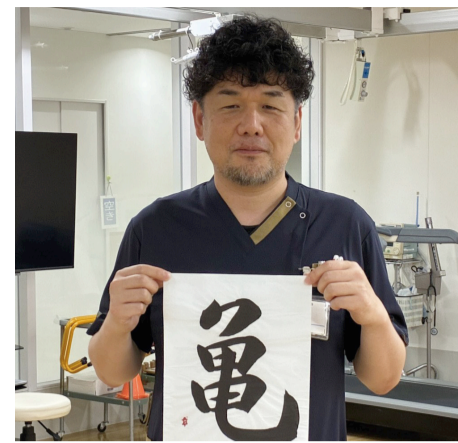
これからも安全で信頼性の高い環境づくりに貢献していきたいと思っています。

瀬戸内市立瀬戸内市民病院 リハビリテーション科長
理学療法士

和氣 武史さん(15期生)

私が入職した平成15年は、療法士2名の小規模な部署でしたが、病床機能の変化やリハビリ機能の充実に併せ、徐々に療法士も増加し現在は22名が在籍しています。スタッフ数の増加に伴い、インシデント・アクシデント増加の懸念があり、平成24年に医療の質安全学会主催の医療安全管理者養成講習を受講しました。しかし、受講から10数年経過し、ここ数年は学び直しの機会を探しておりました。そんな折、本大学院のことを知り、職場や家族の理解も得られたことで受験いたしました。

学校生活については、居住地が岡山県でするので、通学には若干の不安もありましたが、他療法士の支援もあり、スムーズに通学させてもらっています。講義では専門的な知識を、医療安全管理学に限らず幅広く得られ、大変刺激となっております。研究につ



ては、指導教員の先生の手厚いサポートもあり、少しずつですが進められております。また、様々な職種や立場の方々と、同級生としてフラットに話せることも社会人学生ならではの魅力の一つだと思います。

まだまだスタートラインの状況ですが、修了後には本学で得られた知識・経験を職場や地域に還元できるように頑張ります。

修了生からのメッセージ

医療法人緑翔会小松病院
看護部長

中村 かおるさん(10期生)

私が大学院に入学しようと思ったきっかけは、もっと医療安全の事を学びたいということと、認定看護管理者の認定審査を受けることができるのを知ったからです。私のモチベーションは上がり、すぐに入学に向けて動きました。私の入学の時からCOVID-19が流行し始め、オンラインでの講義が始まりました。講義は興味深い内容のものが多く、特に安全心理学や人間工学特論、行動分析学特論などは、大学院に入らなければ学ぶ機会がなかったと思います。

肝心の研究テーマですが、入学当初はまだ決まっておらずかなり焦っていました。指導教授からアドバイスをいただきながら研究テーマが決まった時は本当に嬉しかったです。しかし実際に研究を進めていく中で、コロナ禍



ということで研究に協力してくれる施設がなかなか見つからず、研究データを十分に集めることができませんでした。その中でも精一杯の研究結果を出すことができ、医療の質・安全学会で発表することもできました。

今後は大学院での学びを活かし、地域医療に少しでも貢献できればと思います。

神戸市立医療センター中央市民病院
看護部

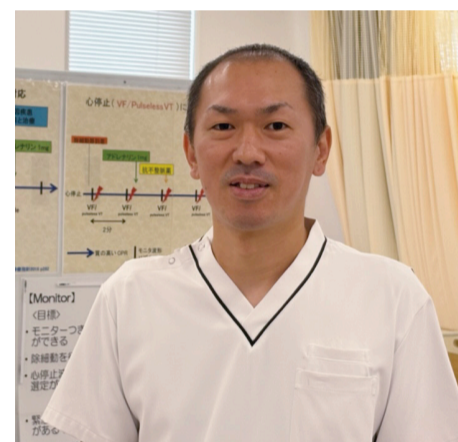
二場 祐樹さん(13期生)

数年前から自身のキャリアプランについて真剣に考えるようになり、体系的な学習や研究に取り組んでみたいと思っていました。

滋慶医療科学大学大学院を知ったのは同僚からの紹介がきっかけです。医療分野に限らず多様な分野の講師のもとで、医療安全や医療経営について体系的に学べる点に大きな魅力を感じ、進学を決意しました。

入学後は先生方の丁寧なご指導や同期との切磋琢磨によって、充実した学生生活を送ることができました。また、職場の上司や同僚の理解があったからこそ、学びを続けることができたと感じています。この経験を通じて、物事の捉え方や考え方が大きく変化し、学ぶことの楽しさを実感しています。

現在は研究生として大学院に在籍し、修



士課程で取り組んだ研究内容を関連学会で発表し、論文投稿を目指して取り組んでいます。また、大学院で培った学びを所属施設での実務にも活かせるよう、今後も自己研鑽を重ねていきたいと考えています。

オープンキャンパスのご案内

オープンキャンパスでは、オンライン並びに対面にて本学の特徴や背景についての説明、カリキュラム、入試制度の案内のほか、講義の体験ができる模擬授業も実施しています。また、修了生によるメッセージもご覧いただけます。入学後の履修科目の選択方法や研究テーマについての相談、また、仕事との両立の仕方など、個別に相談できます。入学を検討されている方はぜひオープンキャンパスにご参加ください。

オープンキャンパスの流れ

- | 1 | 2 | 3 | 4 |
|-------------------------------|----------------------------|----------------------------------|---------------------------------------|
| 全体説明 | 模擬授業 | 修了生メッセージ | 個別相談 |
| 本学の特徴や医療安全管理学分野を学ぶ意義などを説明します。 | 実際の講義を通して、実践的な講義を体感してください。 | 入学動機や修士論文作成までの流れなどについて修了生が説明します。 | 仕事と学びの両立方法やカリキュラム、学修支援など、個別にご相談に応じます。 |

個別相談会・授業見学も随時行っております。
お申し込みは本学ホームページ、またはメール、電話をお願いします。

編集後記

生涯学習は本来 lifelong integrated learning. 統合がキーワードとされます。本学の在学者はほぼ全員が医療・福祉の現役で、グループワークでの発言や、研究についての学内発表を聞いていると、日常の職務経験と本学での学業の統合が窺われることがよくあります。

これからの季節、オープンキャンパスや入学試験を実施して、新たな出会いをお待ちしています。培ってこられた専門的能力に医療安全学の最新の知識技術をブレンドして、さらなるキャリアを展望してみませんか。

学費の負担が軽減!

厚生労働省「専門実践教育訓練給付金制度」の指定講座となっています

専門実践教育訓練給付金制度は、働く人の主体的で中長期的なキャリア形成を支援し、雇用の安定と再就職の促進を図ることを目的とした雇用保険の給付制度で、2018年4月以降の本学入学者のうち所定の要件を満たす場合に給付金が支給されます。本学の入学前に手続きが必要ですので、住居所のハローワークにご相談ください。

【給付額】



順調に単位を取得し2年間で修了、かつ雇用保険の一般被保険者として雇用された場合に限りです。また、専門実践教育訓練給付金制度が拡充され、訓練修了後に賃金が5%以上上昇した場合、訓練経費の10%分(年間上限8万円)が追加給付されます。

【支給対象者の要件】

雇用保険の被保険者として、支給要件期間が3年以上ある方、現在は雇用保険の被保険者ではないが、離職後1年以内でかつその前に支給要件期間が3年以上ある方。初めて教育訓練給付の支給を受ける場合は、支給要件期間は2年以上あればよい。過去に教育訓練給付金を受給した方などは要件を満たさない場合がある。

大学院事務局から

事務局への連絡はメールアドレス jimu@juhs.ac.jp または
電話06-6150-1336(火曜～金曜10時～21時、土曜10時～19時、日祝・月曜休)